

**【調査サマリー】現場監督・所長の 65.5%は、デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのではと不安に****調査実施概要**

調査期間：2023年2月15日～2月22日	回答数：267名
調査対象者：全国の現場監督・所長	調査方法：インターネット調査(ゼネラルリサーチ株式会社)

**【目次】**

調査①現場監督・所長（現場代理人）が思う「建設業界のプラスイメージ」※複数回答.....	1
●【職種別】「社会貢献度が高い」の結果.....	3
調査②現場監督・所長（現場代理人）が思う「最も深刻な業界課題」※複数回答.....	3
●【職種別】「人材不足」が最も深刻な業界課題.....	3
●【番外編】現場監督・所長（現場代理人）が思う「最も深刻な業界課題」の総合ランキング.....	4
調査③現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」....	5
●【職種別】デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安.....	6
調査④現場監督・所長（現場代理人）が思う「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」※複数回答.....	7
●【職種別】「施工・専門工事」「施工管理」が「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」である.....	8
●現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化による生産性向上、業務効率化が進まない理由」※複数回答..	9
調査⑤現場監督・所長（現場代理人）が思う「デジタル化できれば生産性向上に繋がると思う業務」とその理由 ※複数回答.....	10
●現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化で生産性向上に繋がると思う理由」※複数回答.....	12
調査⑥現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化が難しいと思う業務」とその理由.....	13
●現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化が難しいと思う業務に選んだ理由」※複数回答.....	13

**【結果詳細】**

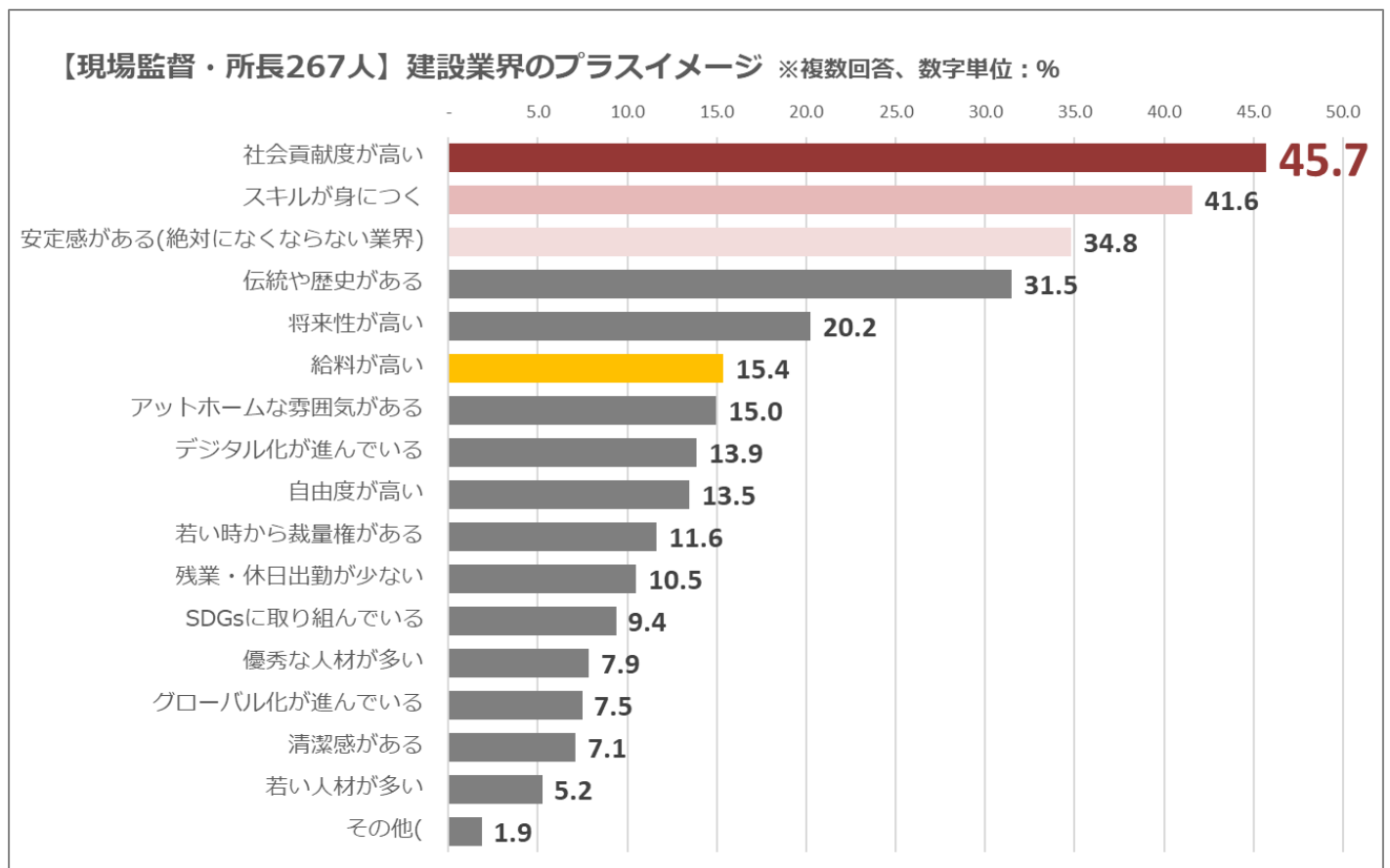
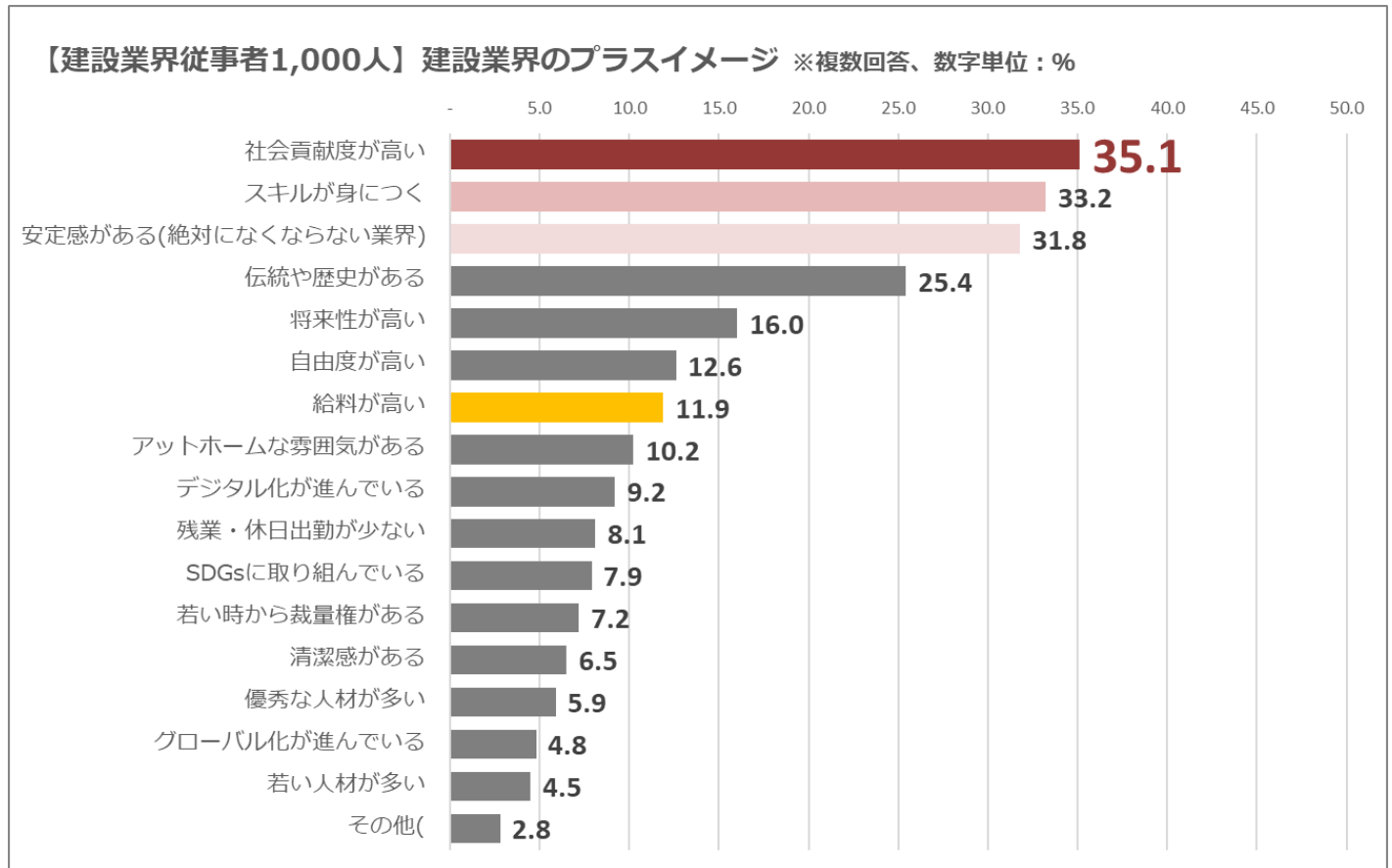
- 現場監督・所長（現場代理人）が選ぶ、建設業界のプラスイメージ1位は「社会貢献度が高い（45.7%）」で、建設業界従事者1,000人と同じ結果（1位/35.1%）だが全体に占める割合は多く、現場監督・所長は、他の職種に比べて、より一層「自分の仕事に誇りを持っている」のではないかと。
- 現場監督・所長（現場代理人）が、最も深刻と考える業界課題は「人手不足（63.3%）」で、建設業界従事者1,000名の56.5%を大きく上回っており、他の職種の結果と比較しても突出している。
- 現場監督・所長（現場代理人）で、デジタル化に対応できないと将来仕事が減るという不安がある方は65.5%で、建設業界従事者1,000名の63.4%を上回っていた。職種別にみても、設計（69.9%）に次いで多い結果となった。
  - ✓設計関連業務（設計・監理など）は、建設業界従事者1,000人の「デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいると思う業務プロセス」1位（46.6%）※「[建設DXに対する意識調査](#)」（2023/4/6発表）より
  - ✓現場監督・所長（現場代理人）が従事する「施工管理」は、建設業界従事者1,000人の「デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいると思う業務プロセス」3位（30.75%）、「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」3位（23.1%）との結果が出ており、二極化している可能性がある ※「[建設DXに対する意識調査](#)」（2023/4/6発表）より
- 現場監督・所長（現場代理人）が「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」は、1位「施工・専門工事」41.2%（全体35.3%）、2位「施工管理」35.5%（全体23.1%）となっており、他の業務プロセスと比較しても、工事現場に直接関連するプロセスのデジタル化による生産性向上等の遅れを痛感していることが読み取れる。
- 現場監督・所長（現場代理人）は、「施工管理」を「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務」の2位（31.5%）、「デジタル化で生産性向上に繋がると思う業務」の1位（58.8%）に上げていることから、「施工管理のデジタル化ができれば生産性向上に繋がる」と期待しているのではないかと。

**調査①現場監督・所長（現場代理人）が思う「建設業界のプラスイメージ」※複数回答**

現場監督・所長（現場代理人）が選ぶ、建設業界のプラスイメージ1～5位は、建設業界従事者1,000人と同じ

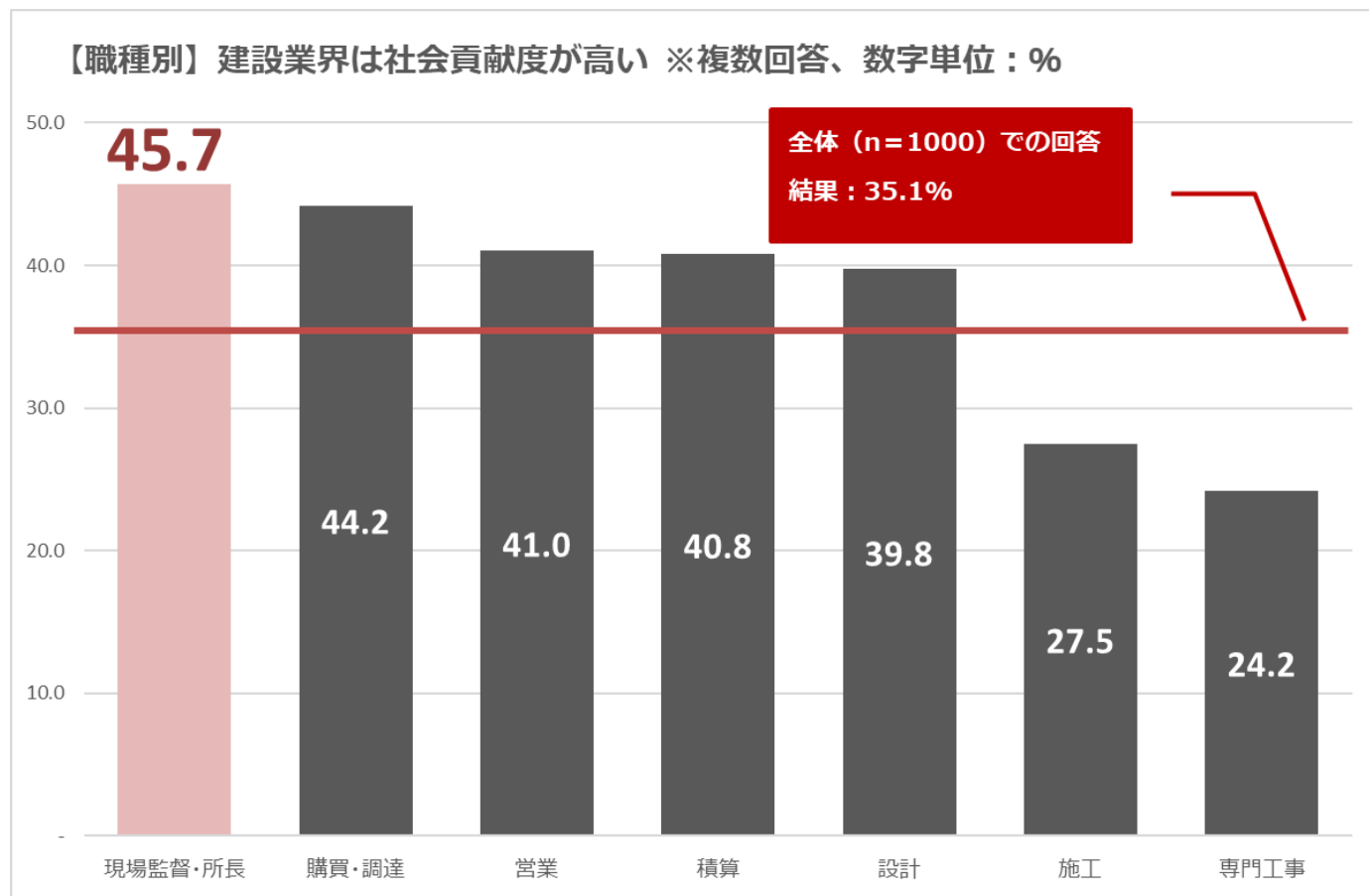
結果でした。

1位の「社会貢献度が高い(45.7%)」は、建設業界従事者1,000人に比べ全体に占める割合が多く、建設業界従事者1,000人の結果では7位だった「給料が高い」が、現場監督・所長267名の結果では6位「給料が高い(15.4%)」にランクアップしている点に注目したいところです。



●【職種別】「社会貢献度が高い」の結果

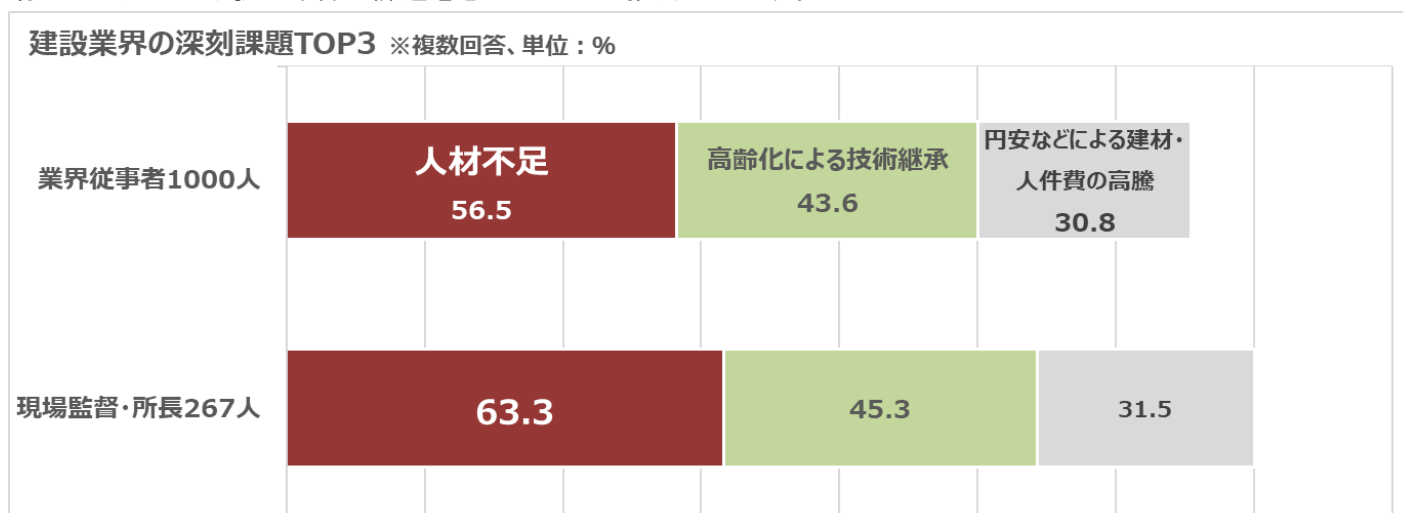
現場監督・所長は、他の職種に比べて、建設業界は「社会貢献度が高い」とのプラスイメージを強く持っていることが分かりました。このことから、現場監督・所長はより強く「自分の仕事に誇りを持っている」のではないかと推測できます。



調査②現場監督・所長（現場代理人）が思う「最も深刻な業界課題」※複数回答

現場監督・所長（現場代理人）が、最も深刻と考える業界課題 1~3 位は、建設業界従事者 1,000 人と同じ結果でした。

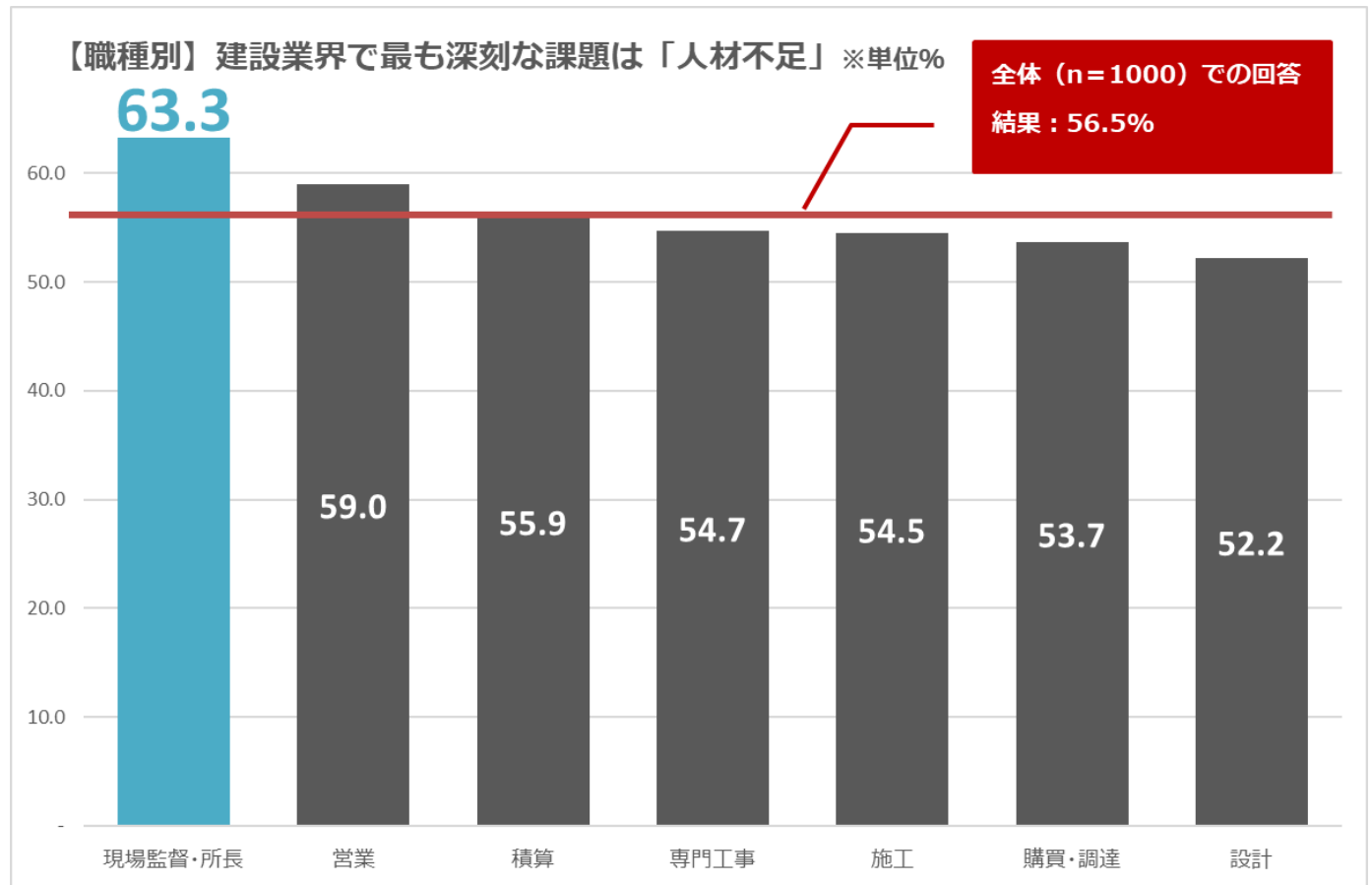
一方で、いずれの項目も、全体に占める割合は建設業界従事者 1,000 人のそれよりも多く、現場監督・所長（現場代理人）はより強く業界の課題を感じていると推測できます。



●【職種別】「人材不足」が最も深刻な業界課題

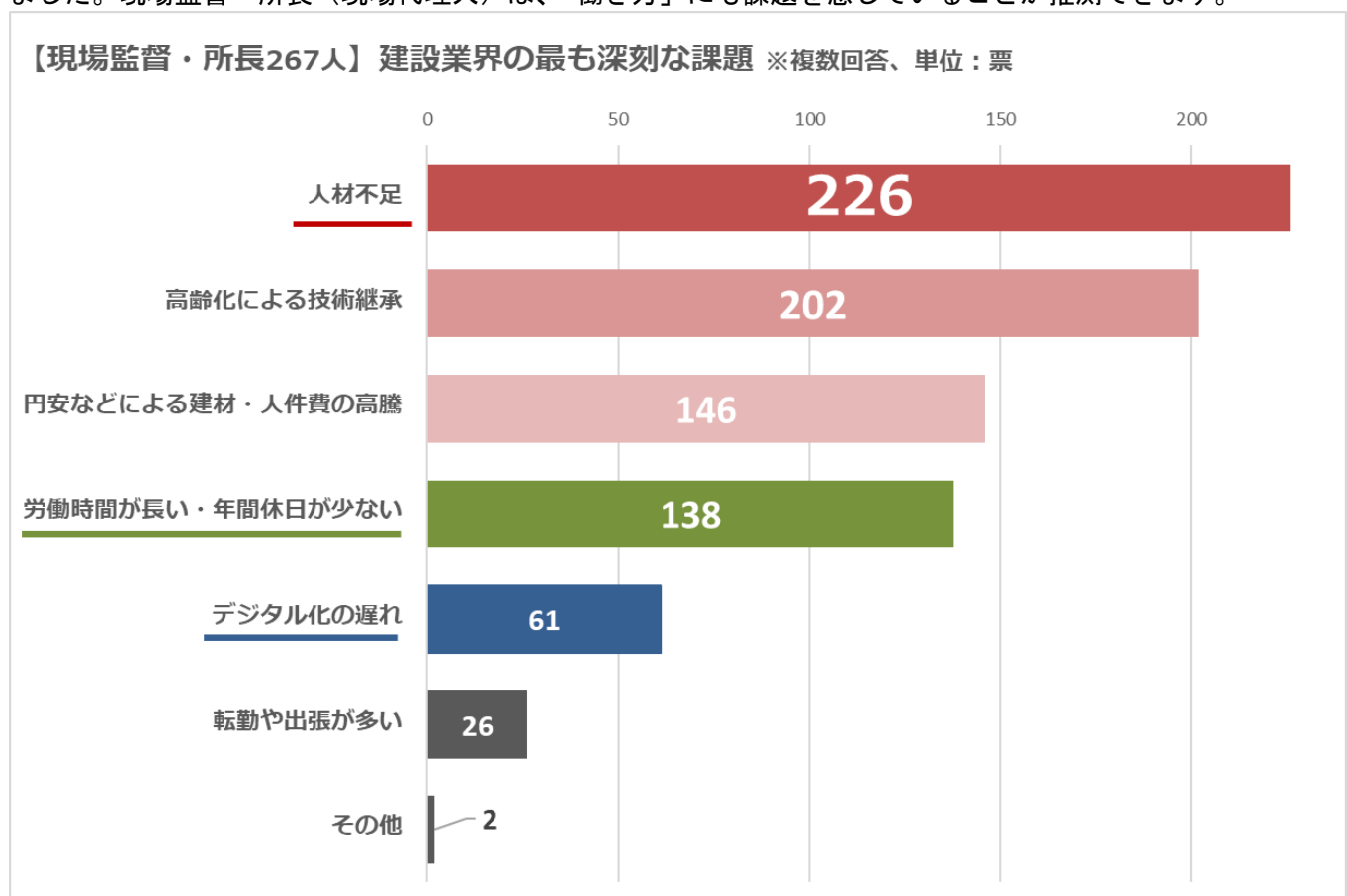
現場監督・所長（現場代理人）が最も深刻な業界課題だと認識している「人手不足（63.3%）」は、建設業界従事者 1,000 名の 56.5%を大きく上回っており、他の職種の結果と比較しても突出していることが分かりました。

このことから、工事現場における「人材不足」の状況は切実で、その解決が急務と言えるのではないのでしょうか。



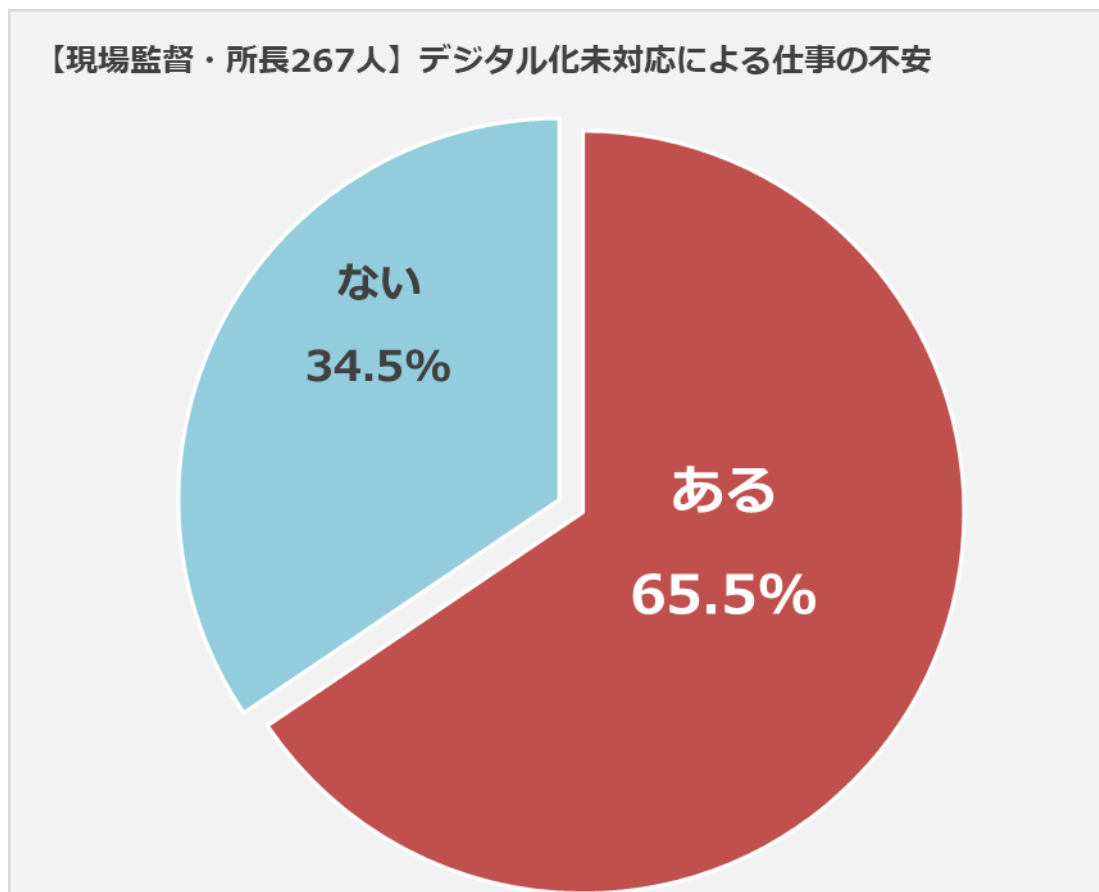
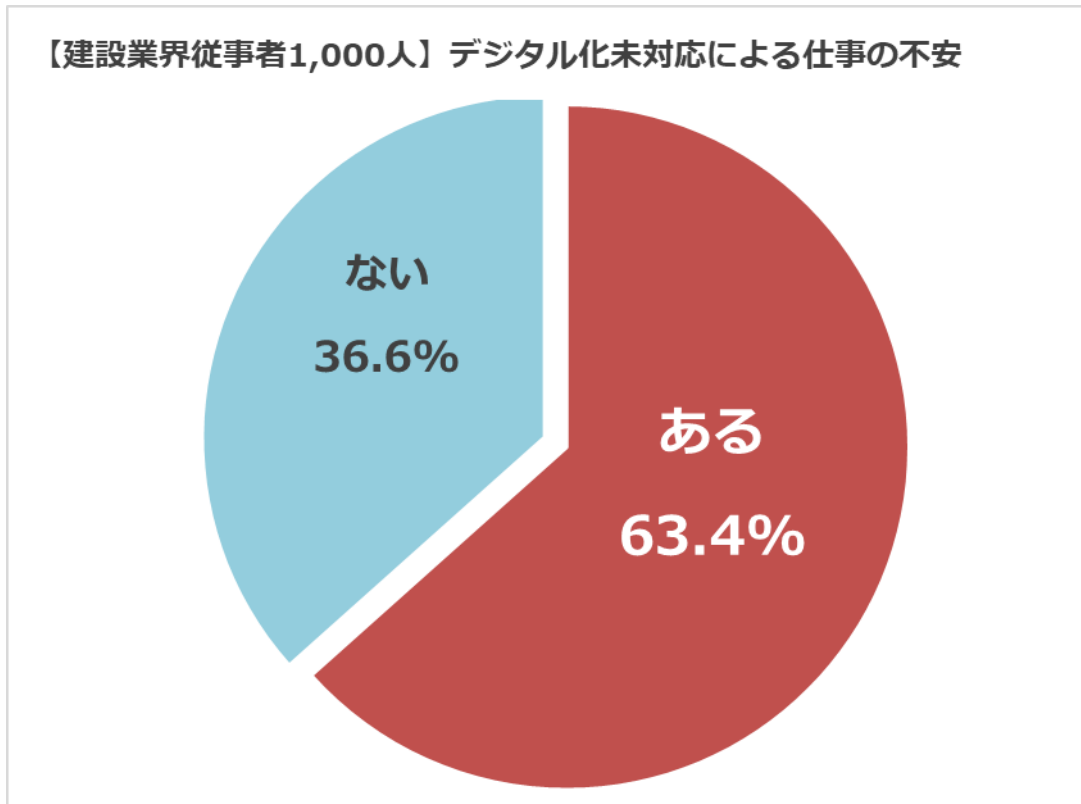
●【番外編】現場監督・所長（現場代理人）が思う「最も深刻な業界課題」の総合ランキング

現場監督・所長（現場代理人）が思う「最も深刻と考える業界課題」1～3位の各票数を総合すると、3位「円安などによる建材・人件費の高騰（146票）」と4位「労働時間が長い・年間休日が少ない（138票）」は僅差となりました。現場監督・所長（現場代理人）は、「働き方」にも課題を感じていることが推測できます。



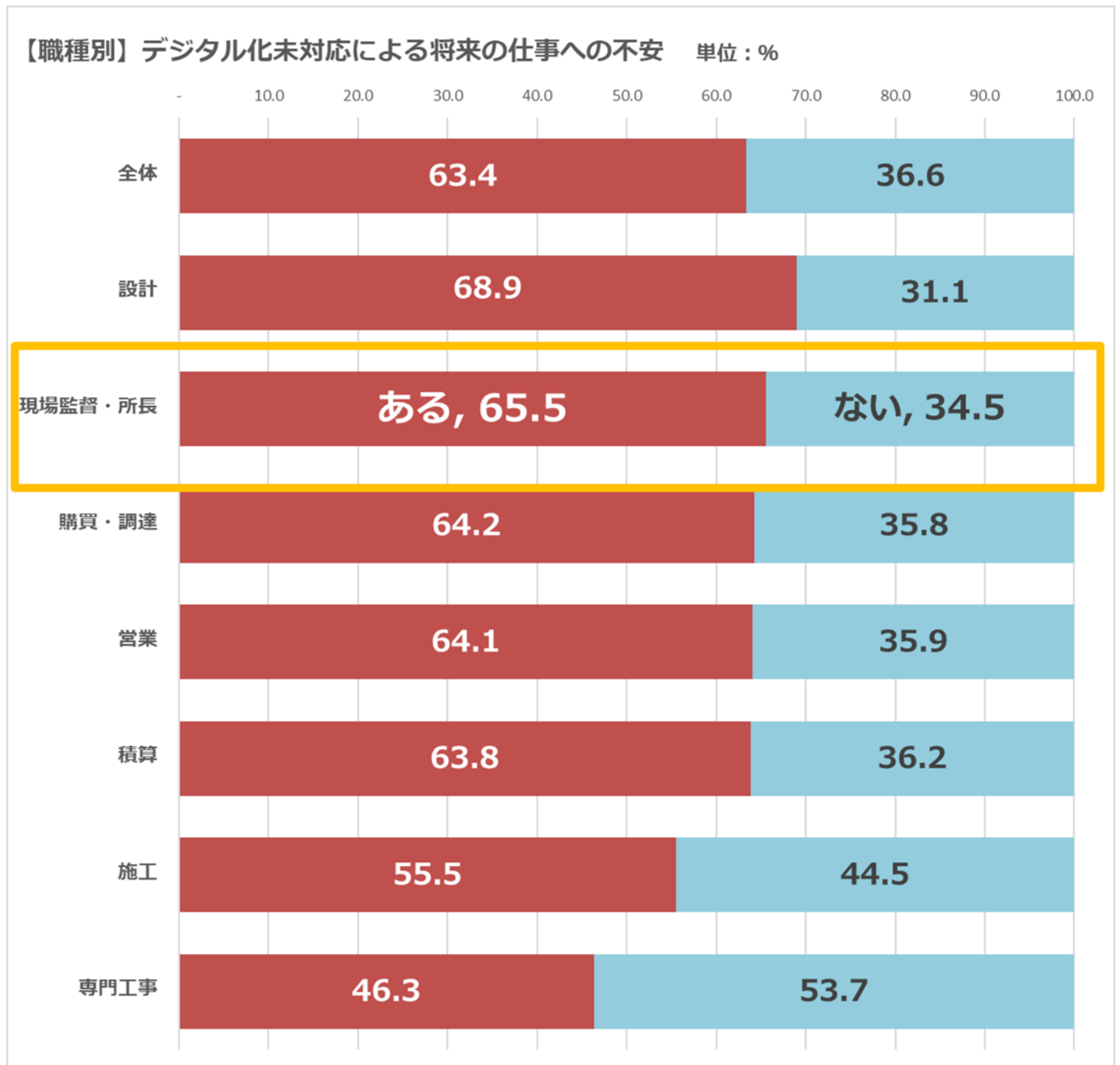
### 調査③現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」

現場監督・所長（現場代理人）で、デジタル化に対応できないと将来仕事が減るとい不安がある方は 65.5%で、建設業界従事者 1,000 名の 63.4%を上回りました。



●【職種別】デジタル化に対応できないと将来仕事が減るでは、という不安

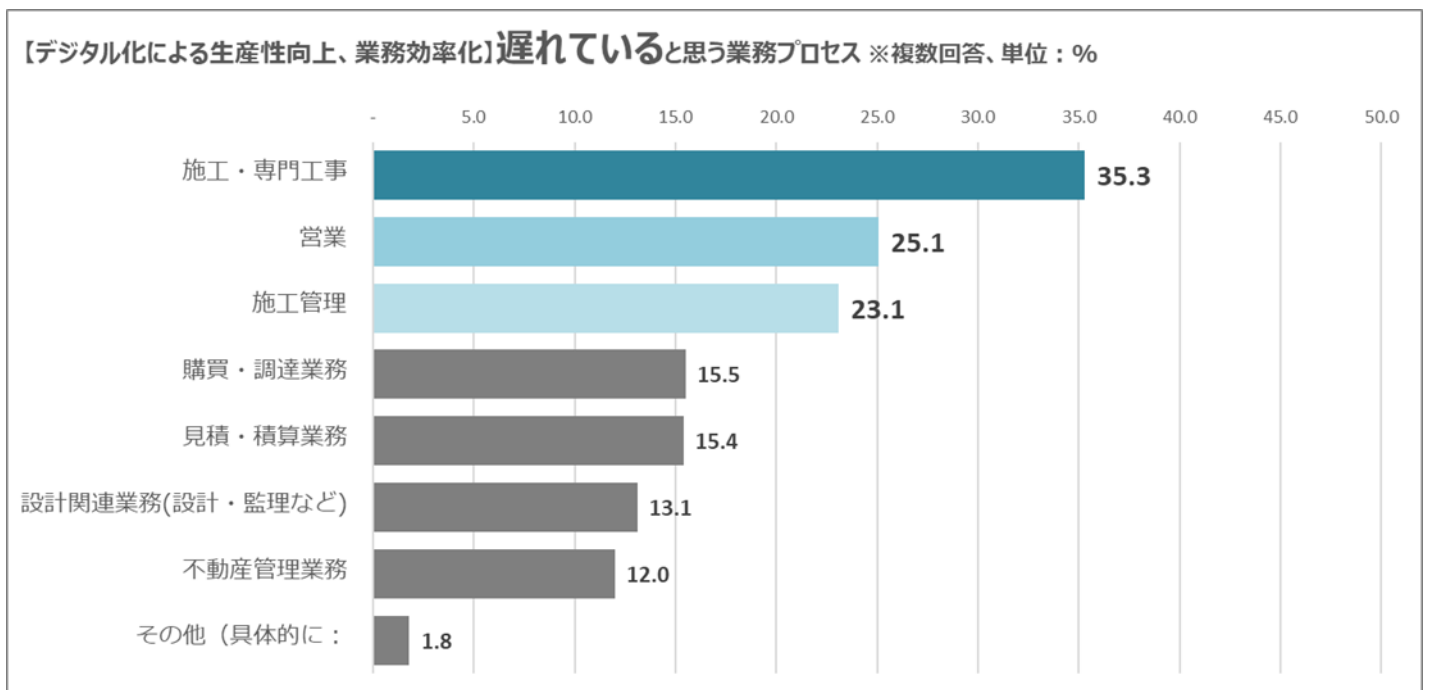
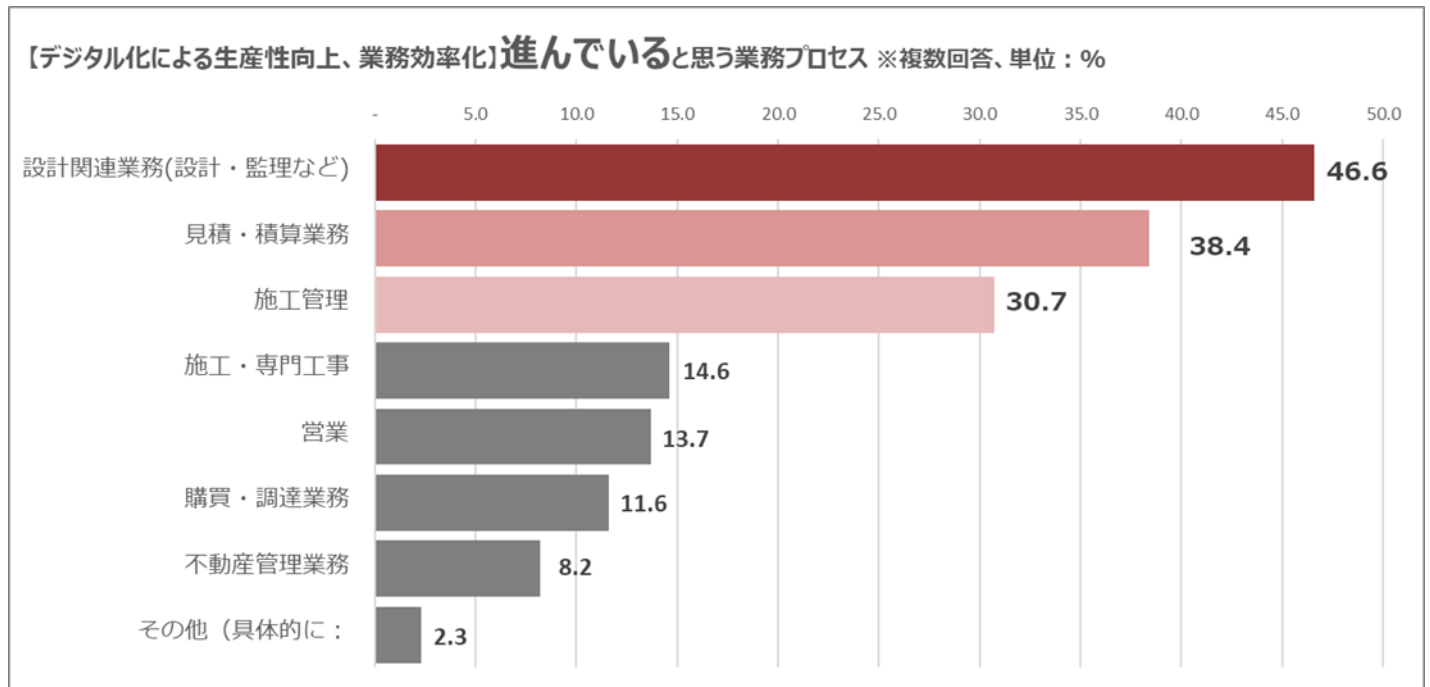
「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは」と不安に思っている現場監督・所長（現場代理人）の割合は、設計に次いで多い結果となりました。



「建設 DX に対する意識調査」（2023/4/6 発表）において、設計は、建設業界従事者 1,000 人の「デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいると思う業務プロセス」1 位（46.6%）にも上がっていることから、デジタル化に対応できないことが将来の仕事の不安に直結すると予想されます。

一方で、現場監督・所長（現場代理人）が従事する「施工管理」は、建設業界従事者 1,000 人の「デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいると思う業務プロセス」3 位（30.75%）、「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」3 位（23.1%）との結果から二極化している可能性がありますが、いずれにせよ、他の職種に比べても、現場監督・所長（現場代理人）はデジタル化対応への危機感を強く感じていることが推測できる結果となりました。

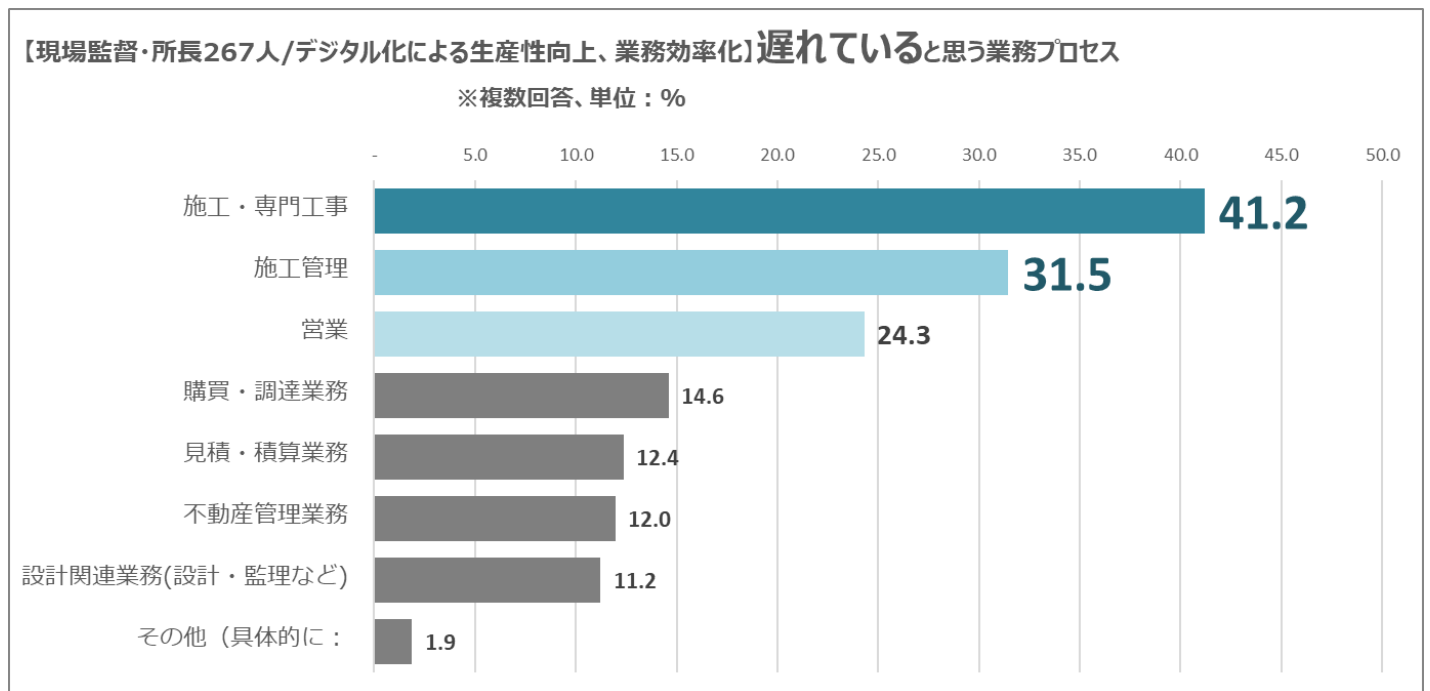
【参考】建設業界従事者 1,000 人の「デジタル化による生産性向上、業務効率化と業務プロセス」



調査④現場監督・所長(現場代理人)が思う「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」※複数回答

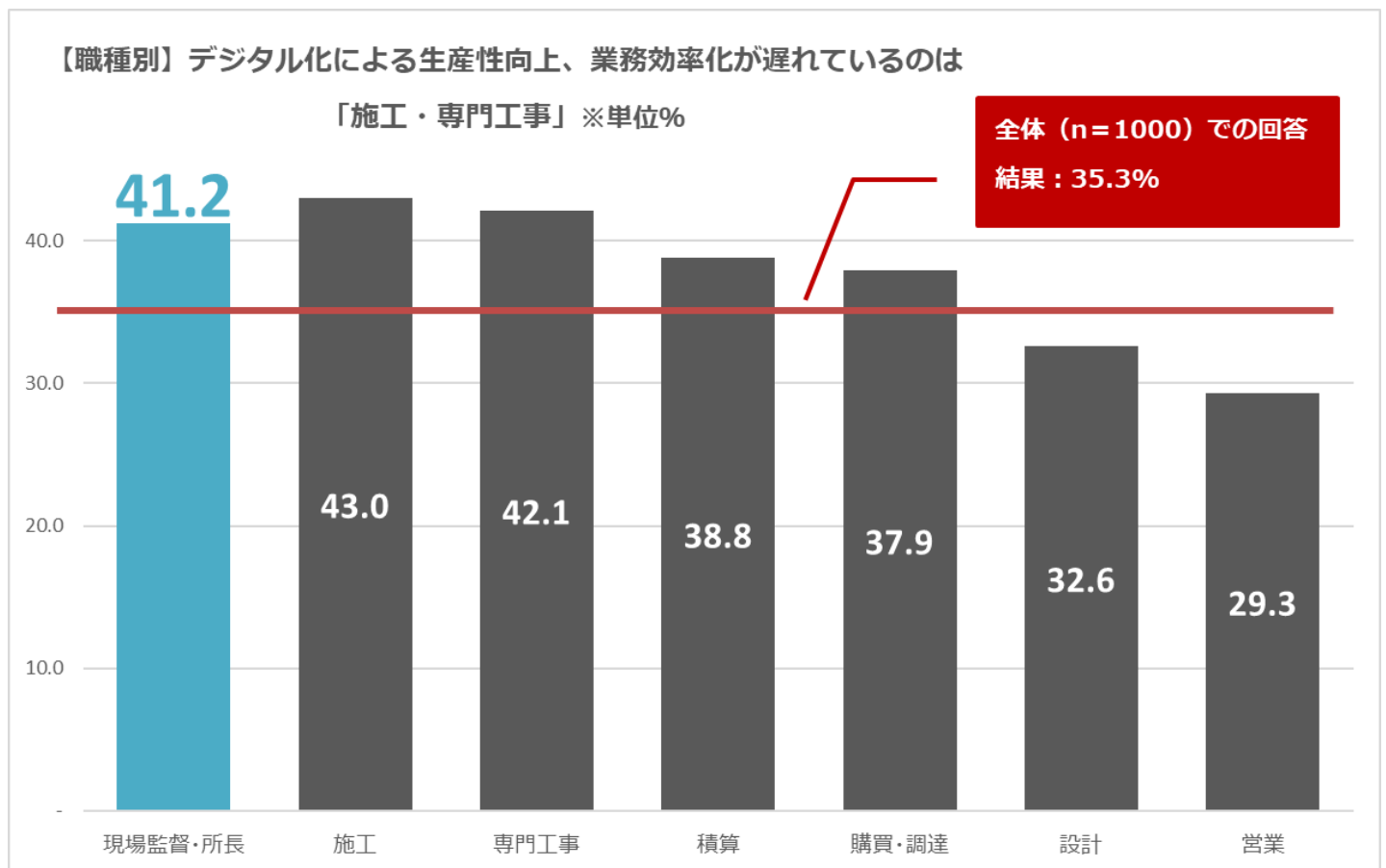
建設業界従事者 1,000 名の結果に比べ、現場監督・所長(現場代理人)においては「施工・専門工事」「施工管理」の数値が格段に高い結果となりました。現場監督・所長(現場代理人)は、工事現場に直接関連するこの2つプロセスの「デジタル化による生産性向上の遅れ」をより強く痛感していることが読み取れます。

デジタル化による生産性向上、業務効率化が <b>遅れている</b> と思う業務プロセス		
	建設業界従事者：1,000 名	現場監督・所長：267 名
1 位	施工・専門工事 (35.3%)	施工・専門工事 (41.2%)
2 位	営業 (25.1%)	施工管理 (31.5%)
3 位	施工管理 (23.1%)	営業 (24.3%)
4 位	購買・調達業務 (15.5%)	購買・調達業務 (14.6%)
5 位	見積・積算業務 (15.4%)	見積・積算業務 (12.4%)

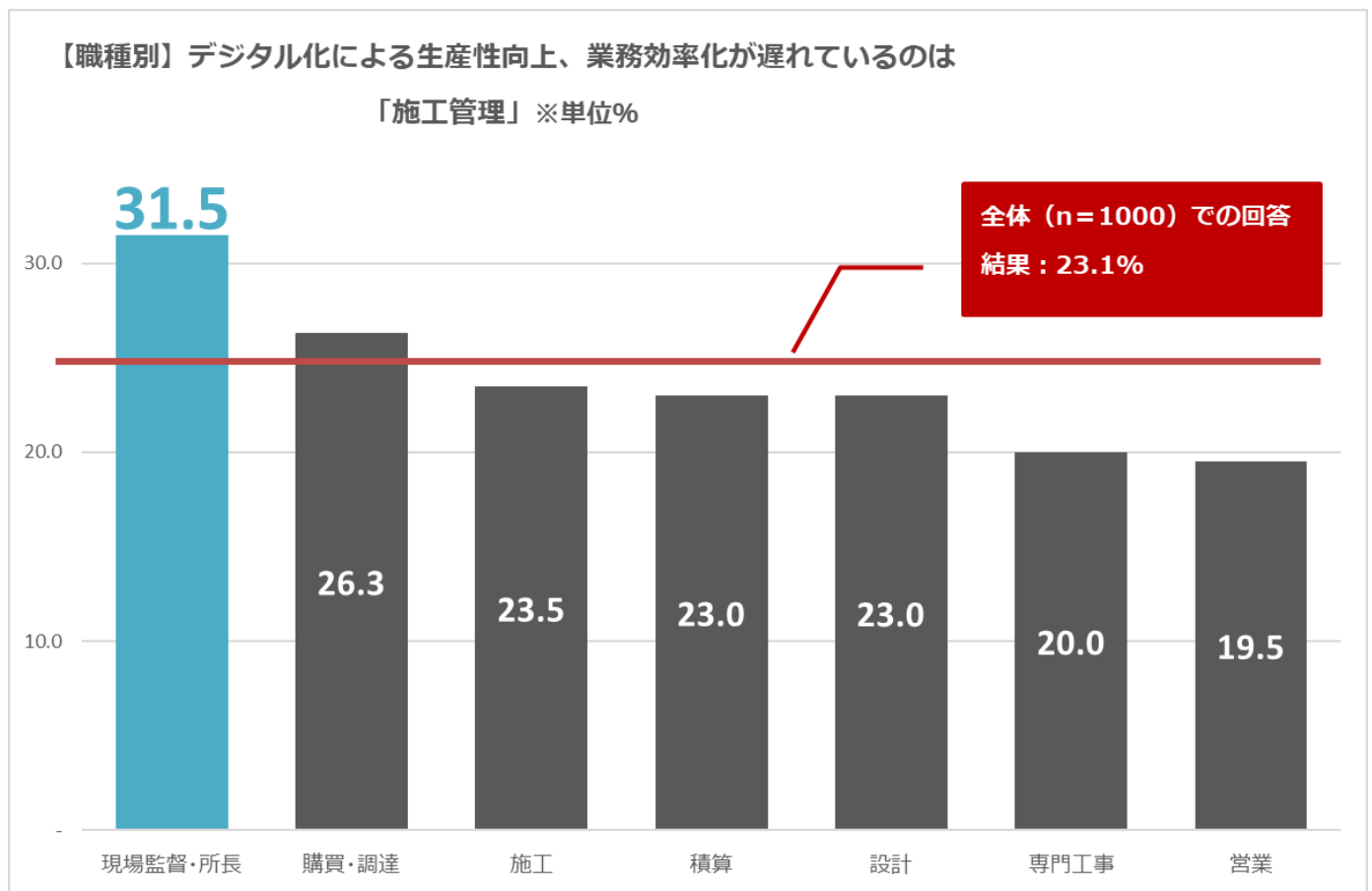


●【職種別】「施工・専門工事」「施工管理」が「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」である

「施工・専門工事」、「施工管理」を「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」と回答した割合を職種別にみると、他の職種に比べて、現場監督・所長（現場代理人）の数値が高い結果となりました。自らが携わっているからこそ、遅れを痛感しているとも読み取れます。





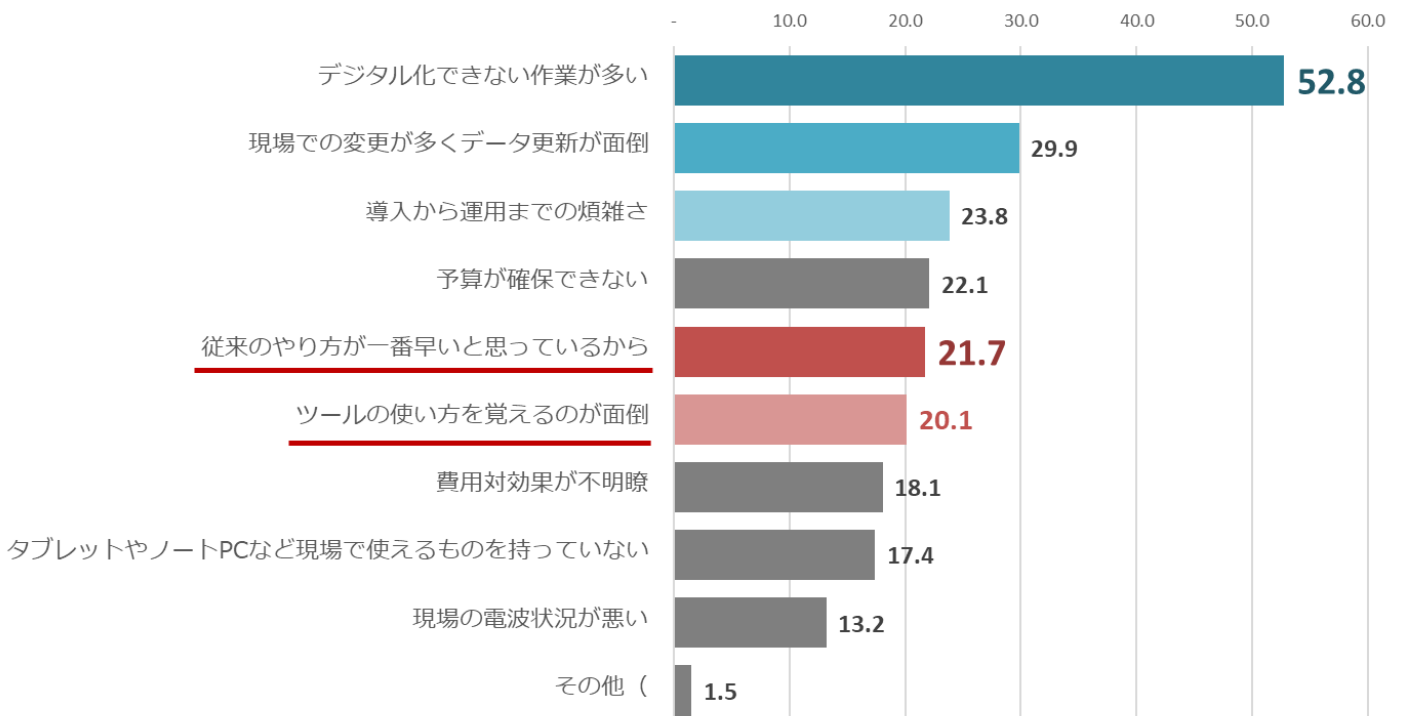


●現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化による生産性向上、業務効率化が進まない理由」※複数回答  
現場監督・所長（現場代理人）が、「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」に選んだ理由は、建設業界従事者 1,000 名の結果とほぼ同じ結果でしたが、いずれの項目も全体に占める割合は多い状況です。特に、5～6 位が入り替わっており、現場監督・所長（現場代理人）は、「従来のやり方が一番早いと思っている」よりも「ツールの使い方を覚えるのが面倒」であることを理由に挙げています。前述の他の結果も踏まえると、現場監督・所長（現場代理人）は、従来のやり方に疑問は感じつつも、労働時間の問題、シビアな予算・収益管理、現場対応を優先せざるを得ない状況が伺えます。

デジタル化による生産性向上、業務効率化が <b>進まない</b> 理由		
	建設業界従事者：1,000 名	現場監督・所長：267 名
1 位	デジタル化できない作業が多い (52.8%)	デジタル化できない作業が多い(57.3%)
2 位	現場での変更が多くデータ更新が面倒 (29.9%)	現場での変更が多くデータ更新が面倒 (36.7%)
3 位	導入から運用までの煩雑さ (23.8%)	導入から運用までの煩雑さ (28.1%)
4 位	予算が確保できない (22.1%)	予算が確保できない (26.6%)
5 位	従来のやり方が一番早いと思っているから (21.7%)	ツールの使い方を覚えるのが面倒 (24.3%)
6 位	ツールの使い方を覚えるのが面倒 (20.1%)	費用対効果が不明瞭 (22.5%)
7 位	費用対効果が不明瞭 (18.1%)	従来のやり方が一番早いと思っているから (22.1%)
8 位	タブレットやノート PC など現場で使えるものを持っていない (17.4%)	タブレットやノート PC など現場で使えるものを持っていない (21.3)
9 位	現場の源波状況が悪い (13.2%)	現場の電波状況が悪い (16.5%)
10 位	その他 (10.5)	その他 (2.2%)

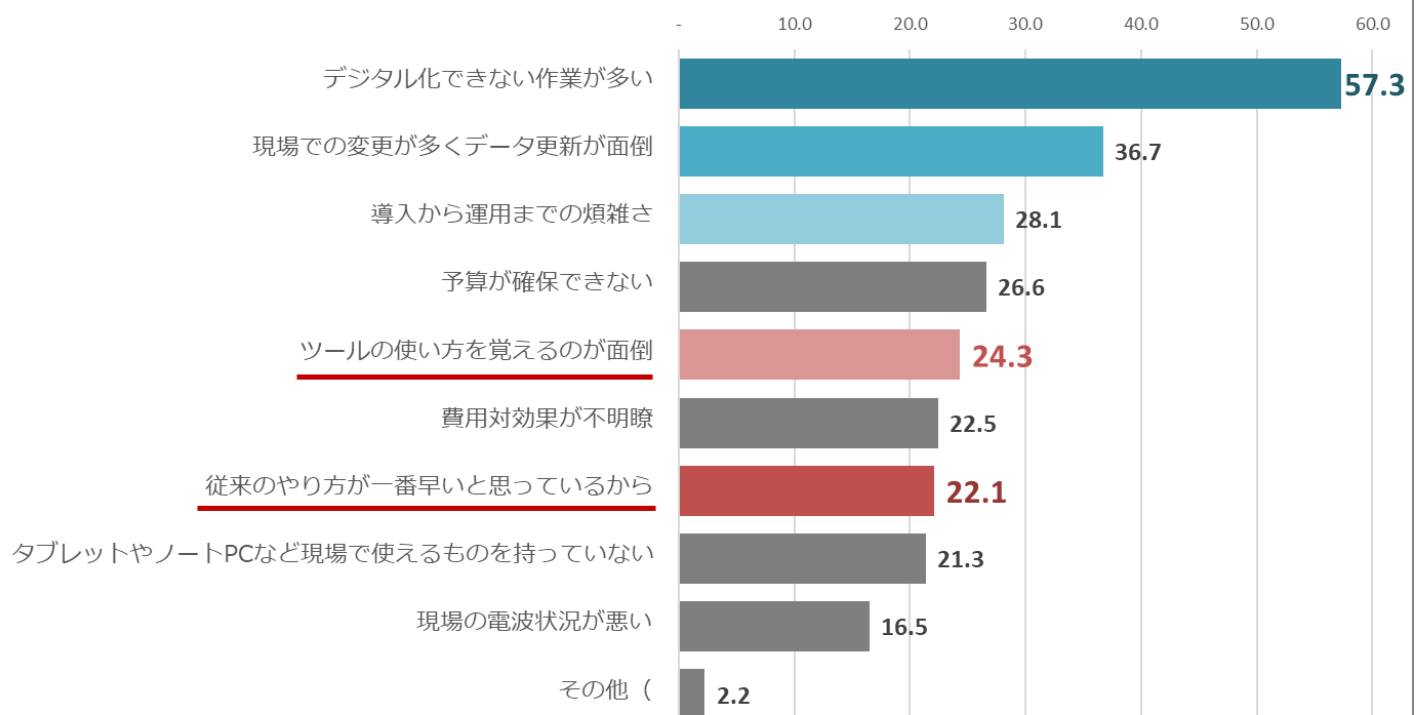
【業界従事者1,000人/デジタル化による生産性向上、業務効率化】進まない理由

※複数回答、単位：%



【現場監督・所長267人/デジタル化による生産性向上、業務効率化】進まない理由

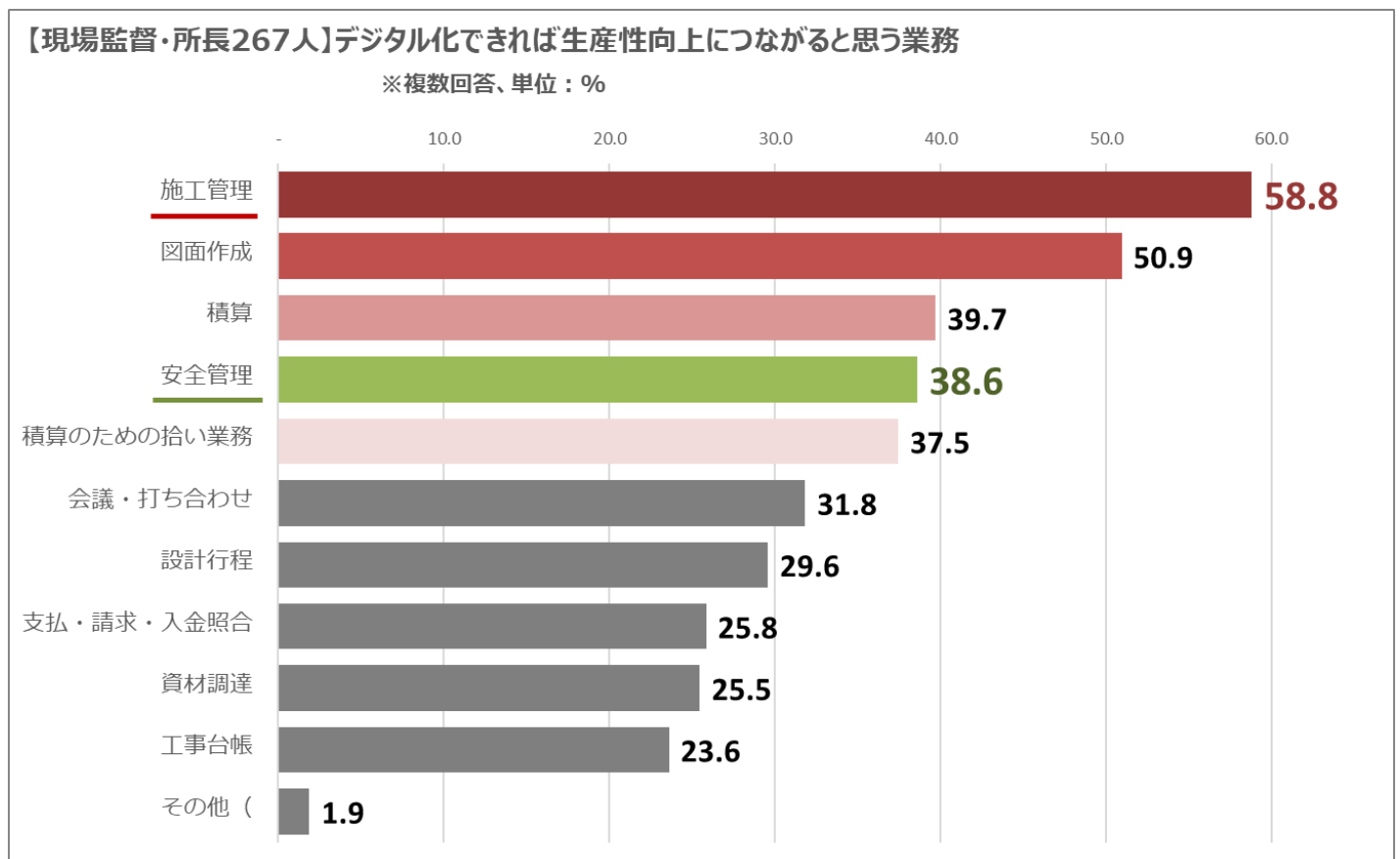
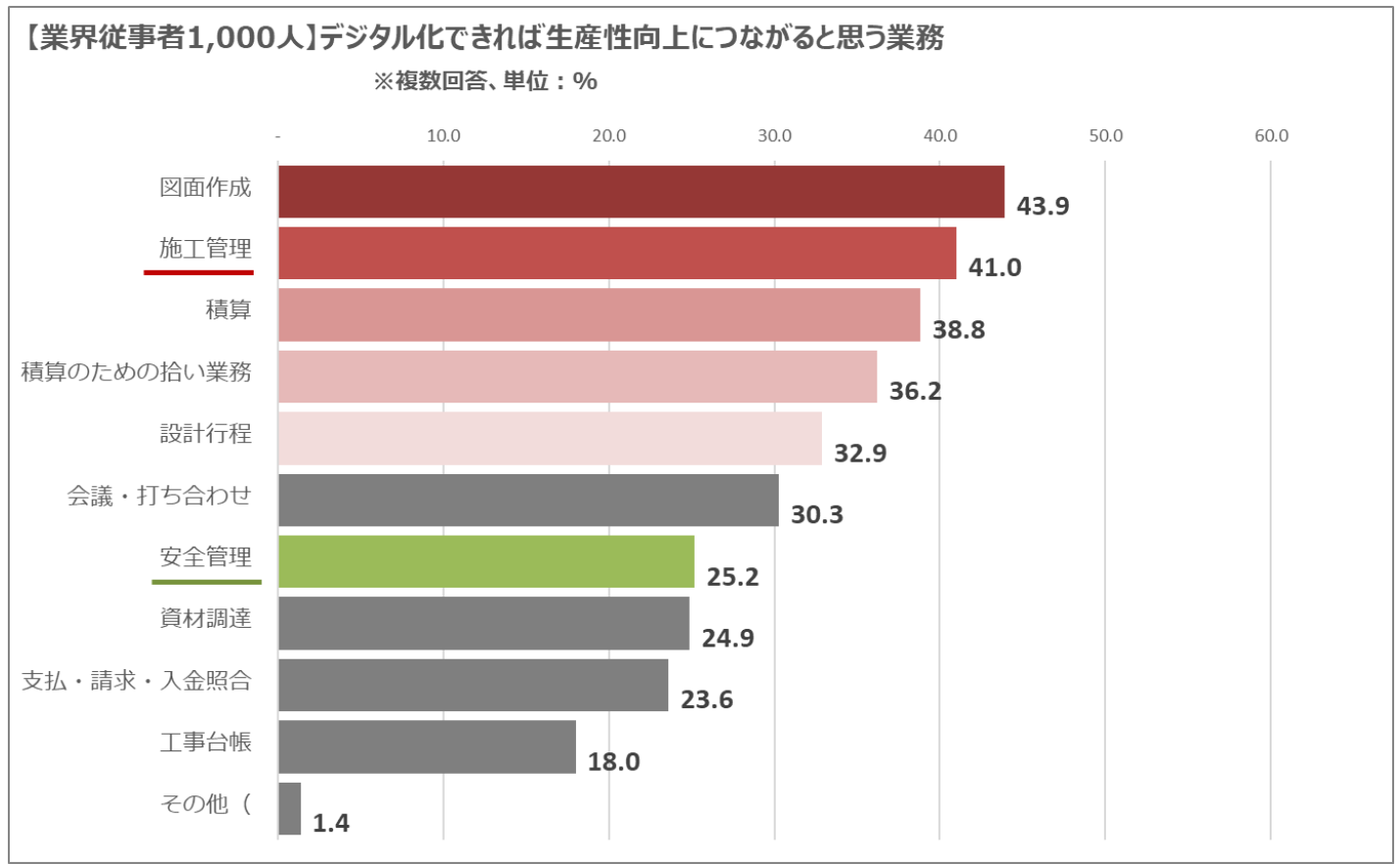
※複数回答、単位：%



調査⑤現場監督・所長（現場代理人）が思う「デジタル化できれば生産性向上に繋がると思う業務」とその理由 ※複数回答

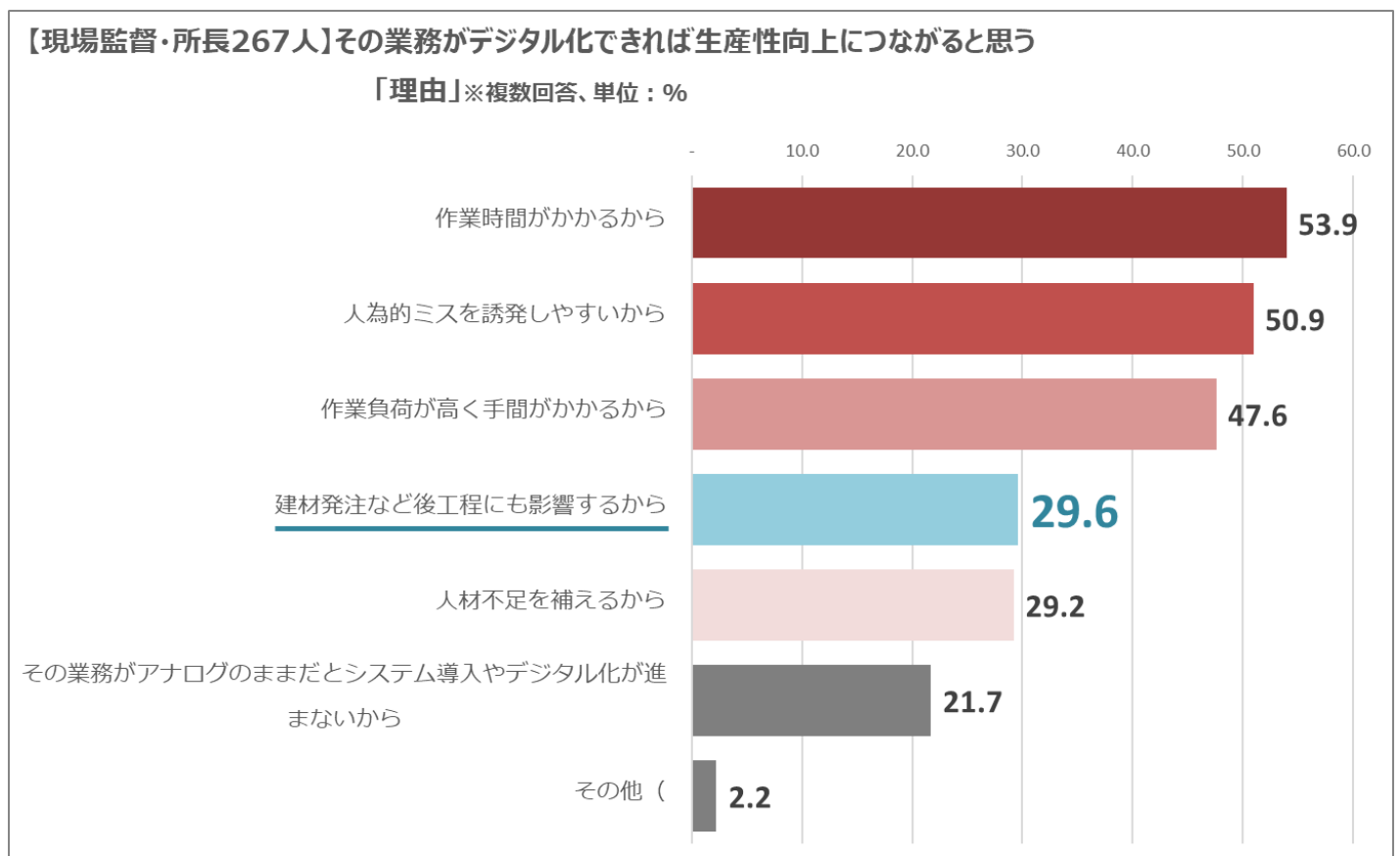
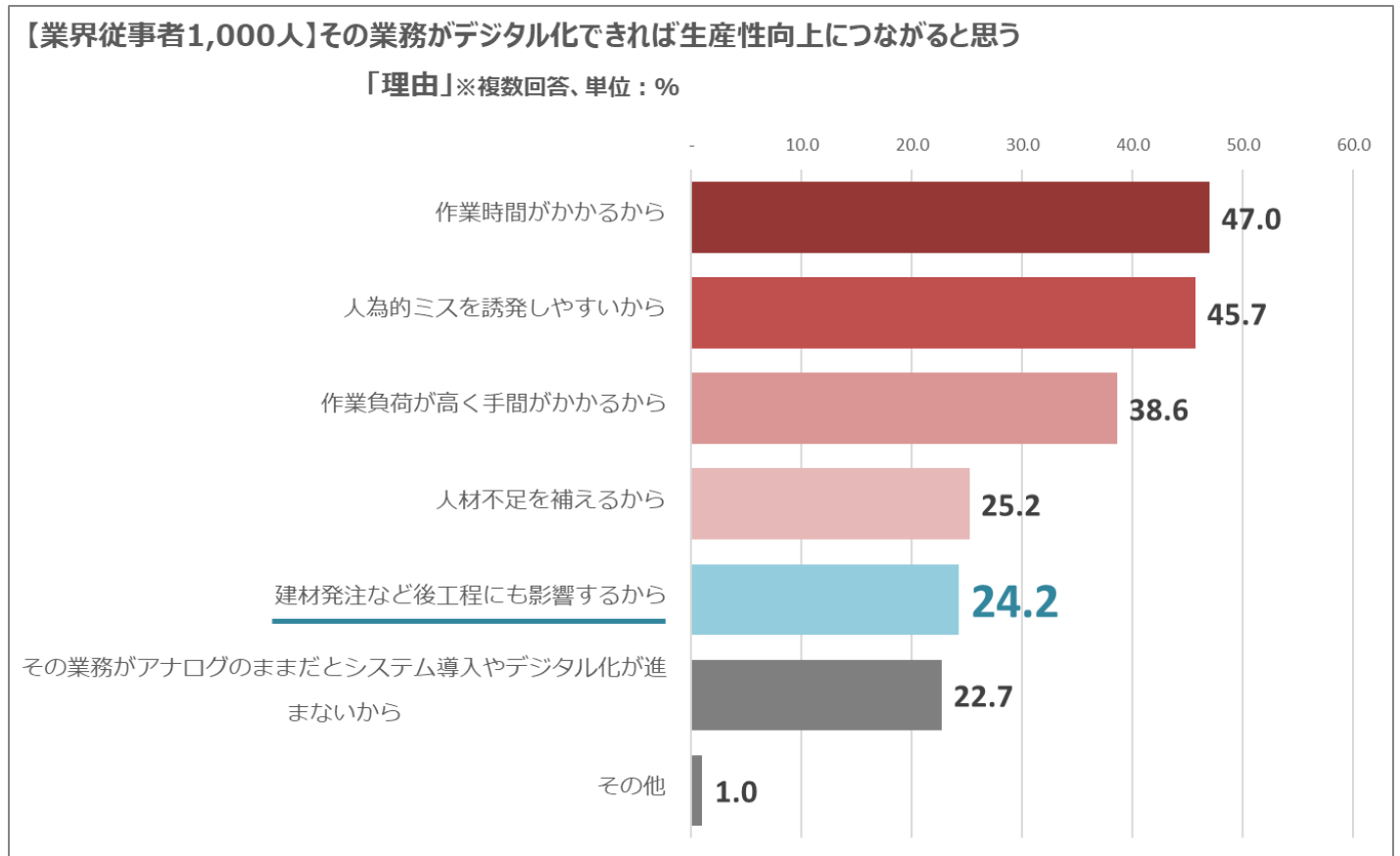
現場監督・所長（現場代理人）が思う、「デジタル化できれば生産性向上に繋がると思う業務プロセス」は、建設

業界従事者 1,000 名の結果に比べ、「施工管理」の数値が格段に高く、また「施工管理」に含まれる「安全管理」業務も 4 位に上がりました。（その理由は別紙を参照）



●現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化で生産性向上に繋がると思う理由」※複数回答

現場監督・所長（現場代理人）が前述の業務を「デジタル化で生産性向上に繋がると思う理由」の1～3位は、建設業界従事者 1,000 名の結果とほぼ同じでしたが、いずれの項目も全体に占める割合は多い状況です。特筆すべきは、「建材発注などの後工程にも影響するから（29.6%）」が4位に上がっている点です。これは、現場監督・所長（現場代理人）が、施工管理で「工程管理」にも特に注意を払っているためと推測できます。



**調査⑥現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化が難しいと思う業務」とその理由**

現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化が難しいと思う業務」は、建設業界従事者 1,000 名の結果と同様で、「施工トラブル（58.1%）」がダントツの 1 位でした。さらに、「設計変更（31.8%）」が 3 位にランクアップしています。

一般的に、「施工トラブル」や「設計変更」には多様な理由があると言われていますが、建設業の特徴の一つである個別生産性（固有の土地に密着して建設するので、同じ内容のものがない）も影響していると考えられます。

デジタル化が難しいと思う業務		
	建設業界従事者：1,000 名	現場監督・所長：267 名
1 位	施工トラブル（52.4%）	施工トラブル（58.1%）
2 位	見積交渉（31.3%）	見積交渉（34.5%）
3 位	会議・打ち合わせ（29.9%）	設計変更（31.8%）
4 位	手書き図面の管理（27.8%）	会議・打ち合わせ（31.5%）
5 位	設計変更（27.5%）	手書き図面の管理（28.1%）

**●現場監督・所長（現場代理人）の「デジタル化が難しいと思う業務に選んだ理由」※複数回答**

現場監督・所長（現場代理人）が「デジタル化が難しいと思う業務に選んだ理由」1～5 位に上がっている項目は、建設業界従事者 1,000 名の結果と同様でしたが、1～4 位が入れ替わっています。

1 位「マニュアル化が難しいから（51.3%）」と 2 位「対応が時と場合によるから（50.6%）」は僅差でしたが、両項目とも全体に占める割合が 50%を超えている点が特筆すべき点と言えるのではないのでしょうか。

デジタル化が難しいと思う業務に選んだ理由		
	建設業界従事者：1,000 名	現場監督・所長：267 名
1 位	対応が時と場合によるから（46.5%）	マニュアル化が難しいから（51.3%）
2 位	マニュアル化が難しいから（43.6%）	対応が時と場合によるから（50.6%）
3 位	ノウハウを共有していないから（27.1%）	習得するのに時間がかかるから（31.1%）
4 位	習得するのに時間がかかるから（24.9%）	ノウハウを共有していないから（30.3%）
5 位	費用が回収できないから（21.8%）	費用が回収できないから（23.2%）

建設業は土地（自然）と密着している産業であり、それゆえに、従来の建設現場では設計図通りに建物ができることは減多にありません。従来の 2D 図面やアナログなやり方では、設計段階で決められる事項が限られており、工事に必要な詳細な情報を全て表しきれないため、少なからず、取り合い（建築物などにおいて、異なる構造物が出会う接合部分のこと、またはその接合部分における処置のこと）や納まり（各部材が接合される部分などの総称）を現場で調整する必要が発生します（施工用に別途、施工図を作成します）。

しかし、現在、官民一体で進めている BIM（Building Information Modeling）によって、フロントローディング（建設プロジェクトの前段階/フロントである設計工程に負荷をかけ、設計内容を充実させ精度を高める手法、またはそのような考え方）が実現すれば、設計変更や手戻りが減ると言われています。

そして、国内建設産業における BIM の活用は、設計から施工段階へと徐々に進展しています（施工 BIM）。現場を管理する現場監督・所長（現場代理人）の皆さんは、この施工 BIM の普及に重要な役割を果たすものと思われま。

以上

**【本件に関する報道関係者からの問合せ先】**

野原ホールディングス株式会社

マーケティング部 ブランドコミュニケーション課（担当：森田、齋藤）

E-Mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp